

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)）

分担研究報告書

難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究

分担課題：CQ”顎骨の動静脈奇形の適切な治療は何か”に関するガイドライン作成

研究分担者：新見康成 聖路加国際病院神経血管内治療科部長・脳神経センター長

研究要旨

本研究は全体的には、血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症およびその関連疾患を対象とし、その疾患概念を形成し患者に貢献することを目的とする。その中の分担として、顎骨の動静脈奇形の診断基準、重症度分類、診療ガイドラインを策定し、関連学会の認定を受けることを成果として期待する。

A. **研究目的**：顎骨の動静脈奇形の適切な治療を検討し、ガイドラインを作成する。

B. **研究方法**：CQを設定し、文献検索、システマティックレビューを行い、推奨・解説を作成した。

(ア) (倫理面への配慮)

(イ) 本研究は、主に文献レビューに基づいて行われ、適切な引用を行う以外には倫理面での問題は生じない。

C. **研究結果**：血管内塞栓術（硬化療法を含む）単独か、それに続く手術療法に関するものがほとんどで、手術単独療法の症例集積はなく、放射線療法を併用した症例集積は1本のみであった。手術単独療法と放射線療法は一般的には勧められないと判断された。血管内塞栓術は、施設や症例によって経動脈的、経静脈的、直接穿刺などの様々なアプローチが、ときには組み合わせて行われている。

D. **考察**：文献の大半は少数例の症例報告で一部の専門施設から症例集積が散見された。他治療と比較したコーホート研究や無作為比較試験はなく、その有効性について高いエビデンスはなかつ

た。

E. **結論**：手術単独療法は勧められないが、血管内塞栓術との併用は症例によっては勧められる。放射線療法は勧められない。硬化療法を含む血管内塞栓術は、単独ないし術前療法として勧められる。

A. **研究発表**

1. 論文発表

a: 新見康成、佐藤慎祐、井上龍也、茂木陽介、栗本健太郎、島彰吾、岡田芳和、松井瑞子：頭頸部動静脈奇形に対する血管内治療 形成外科 2017 in press

2. 学会発表

(ア) 講演

a: “Material Selection: What do you use for vascular malformation?” in Plenary Session III: Vascular Malformation, Global Embolization Symposium and Technologies (GEST) Asia 2016, December 16-17, 2016 Tokyo Japan

b: “Embolization of Head and Neck AVM” in Plenary Session III: Vascular Malformation, Global Embolization Symposium and Technologies (GEST) Asia 2016,

December 16-17, 2016 Tokyo Japan

(イ) シンポジウム

a: “頭頸部AVMに対する血管内治療” at Symposium 8 “AVMに対する血管内治療のUpdate” at 第57回日本脈管学会総会 Oct 13-15, 2016 Nara Japan (invited)

(ウ) 一般演題

a: 新見康成、佐藤慎祐、井上龍也、岡田芳和、茂木陽介、島彰吾、松井瑞子、野崎太希：“摘出前に塞栓術を行

った頭部顔面の小動静脈奇形：5例報告” 第13回日本血管腫血管奇形学会学術集会、May 20-21, 2016, 石垣島

b: 新見康成、佐藤慎祐、井上龍也、茂木陽介、島彰吾、岡田芳和、松井瑞子、“頭部顔面の小動静脈奇形に対する術前血管内塞栓術” 第32回日本脳神経血管内治療学会総会 November 24-26, 2016, Kobe Japan

G. 知的所有権の出願・取得状況

なし